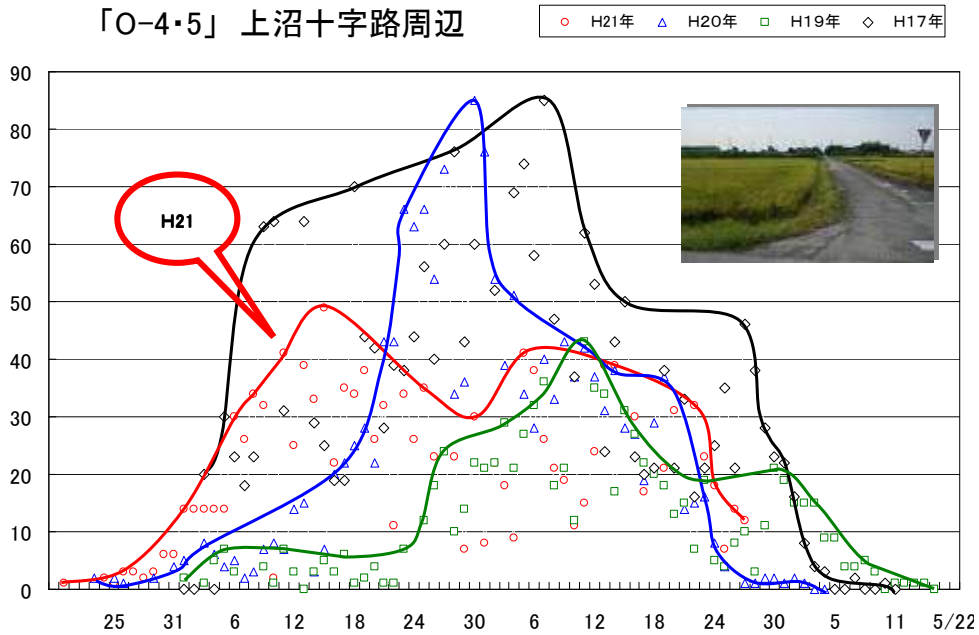
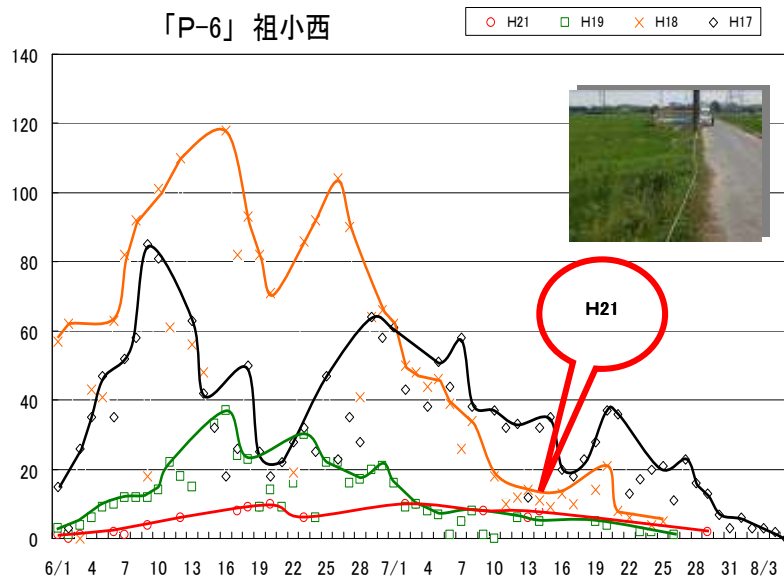


「O-4・5」 上沼十字路口周辺



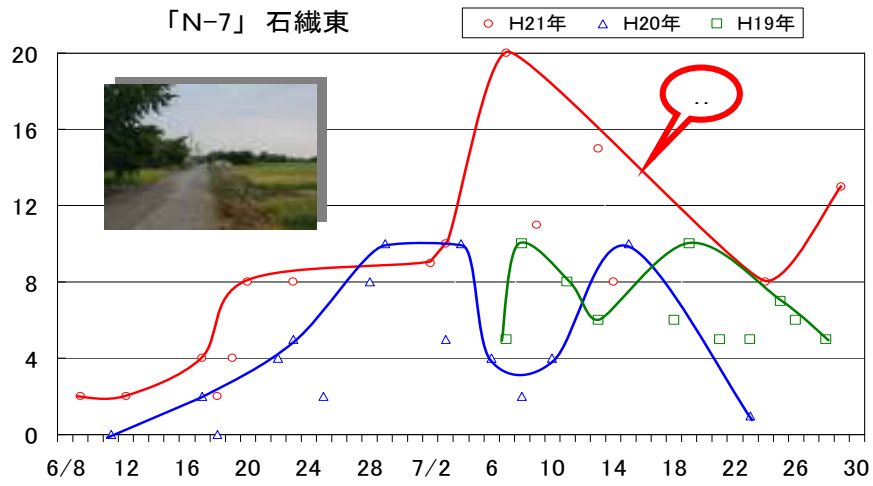
この写真は十字路口から南に延びる道路を撮影したものである。ここは、以前と比べればホタルは減少しているが、昨年よりも多少多く発生したように思われる。ピークは6月中旬でホタルの観察会の時期は少なくなってしまった。この道路沿いは、会員が草刈りしているところでもある。

ホタルの餌である、ヒメタニシやモノアラガイは他の地域と比べて少ない。

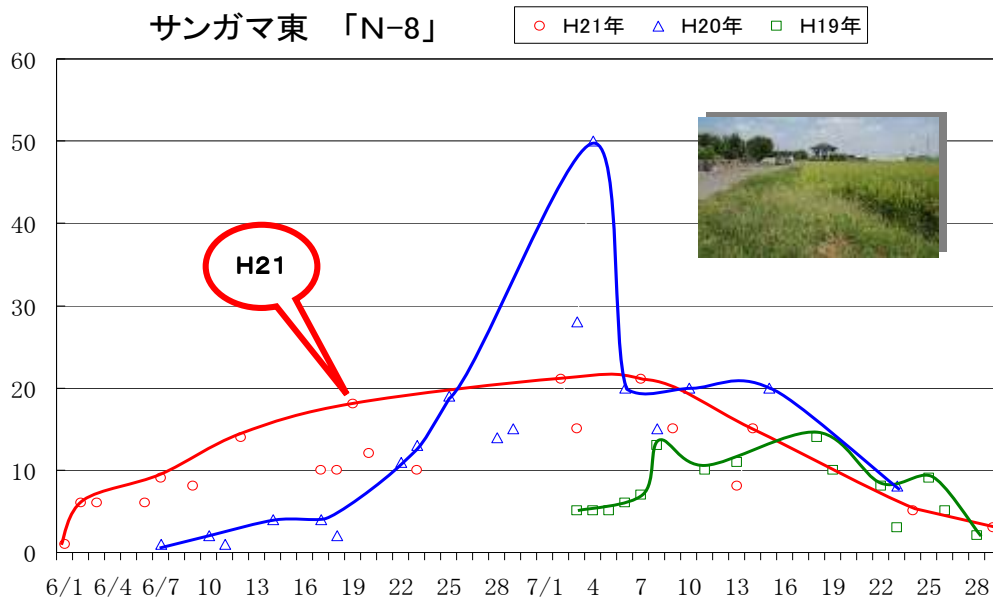


毎年6月下旬に、「祖父江のホタルを守る会」が、観察会を開催する現場。

北西角に街路灯ができ、道路西側の畑を囲んでいた雑木林が取り払われたりしたためか、年々ホタルも減少している。北から2と3枚目の田圃にある取水口付近(電柱がある)が多く、観察者も多い……。

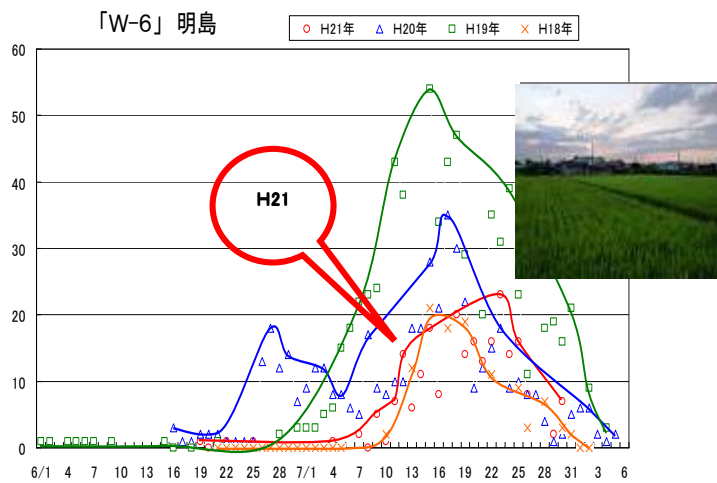


ここは道路西側(写真の車)の田圃東畦に出る。銀杏畑と田圃の境に湿地帯が有り、そこで幼虫を観察することもできる。田圃の南東角に取水口が有り、その上にカヤツリのような草がこんもりと生茂っている。最盛期にはクリスマスツリーのように輝いている……。昨今、道路の東に出なくなったのが残念である。

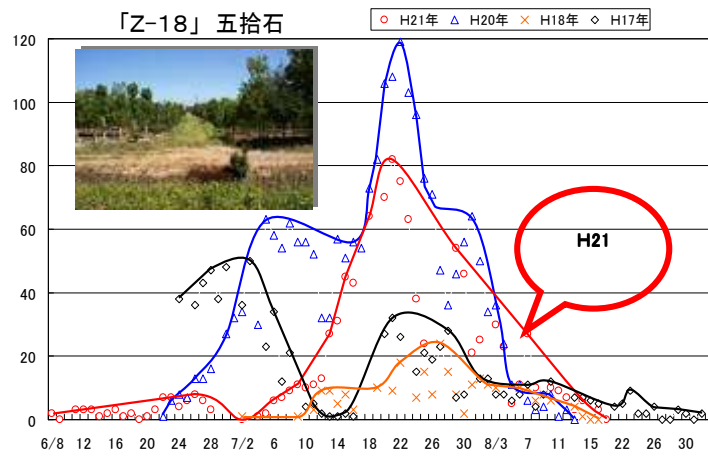


ここも2枚の田圃中央にある取水口付近に多く出現する。以前は北の田圃に多かったが、南(写真手前)にも多く出るようになった。道路西側の中高木林で、稀に交尾しているところも観察できた。平成21年からオペレーターさんが、南側田圃畦にカラスのエンドウを蒔き、雑草を低く抑える実験をしている。除草剤を撒かず、草刈回数を減らす工夫のようです。幼虫上陸期に好影響をもたらすよう期待したいです。

ここより北へ延びる道路は、道幅も広くなく通る人も疎らです。夜は暗く沿道の田圃では、ホタルを見ることができます。祖父江地区の「ホタルロード」とも言える農道です。



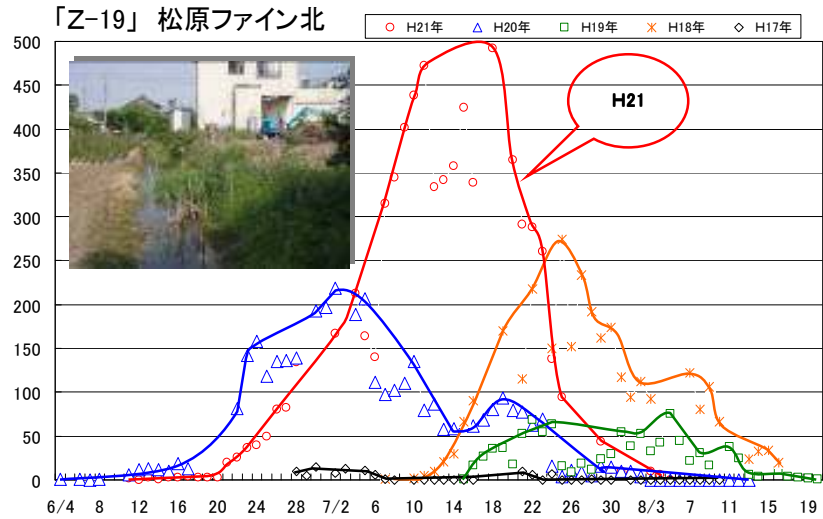
一昨年の1/3程度になってしまった。畦の草刈りをしているのに、毎年少なくなり肩を落としています。
 水質調査時ではサカマキガイ・タニシを見かけるが、どうなっているのだろう。



植木畑の中をよぎる一本の道。その両側の土手と木々の間をホタルが飛び交う。

毎年ホタルの発生数も安定していたが、此処も人による環境変化が忍び寄ってきた。去年間道の東端に街路灯が建ち、直下のホタルは奥に追いやられた。今年は一画に住宅が建ったので、ホタルは更に奥へ追いやられることになった。この春、ホタルの幼虫やモノアラガイが居た筈の溝が30cmほど掘り下げられ、その泥は植木の根元に撒かれた。また間道と畦の草刈活動を年3回行っているが、タイミングを外したら除草剤を散布すると警告されている。

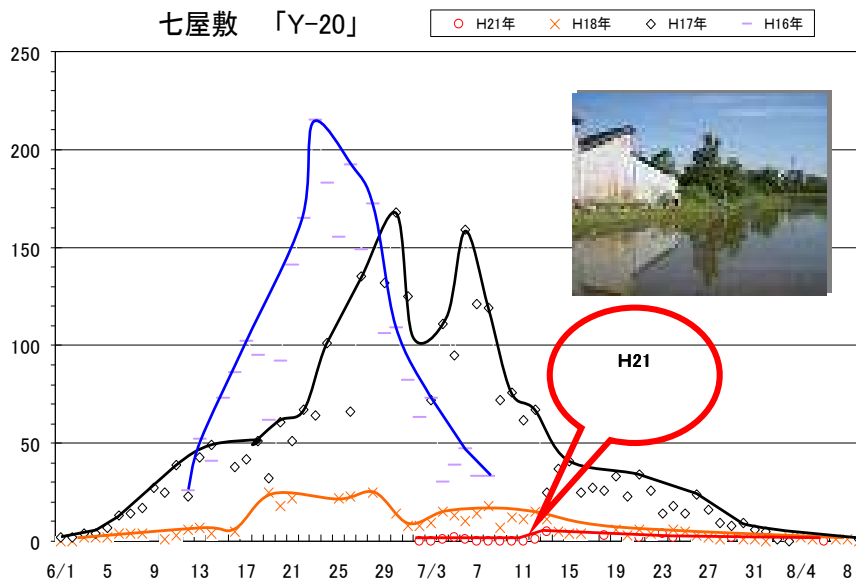
年々進むホタルの生息環境の劣悪化が、とても、とても心配です。



今年爆発的に大発生をした「ホタルの楽園」であります。

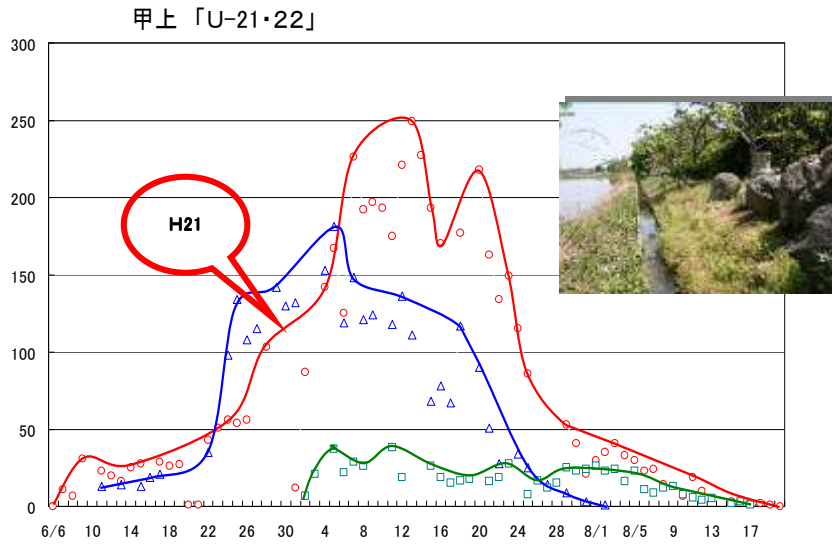
シーズン前、斜面の上端部に有った雑木林の一部が伐採され、更地になりました(写真右前方建屋の壁が見える)。昼間は陽射しが差し込み、草叢斜面の土が乾きはじめた。夜は付近の照明で足元まで明るくなったりして、ホタルの生息環境の劣悪化が進んだ。

とても心配です(ーー)来年のホタルの発生はどうなるのかなあ……。

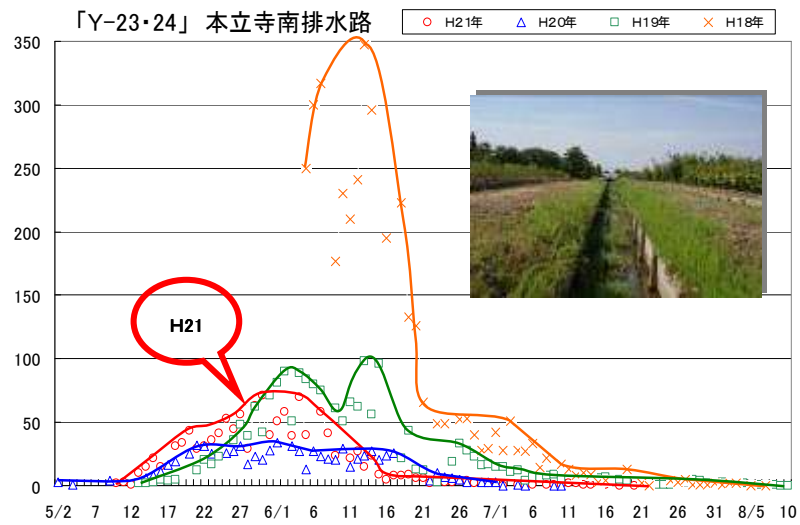


勝手の名所も今は見る影もない。今年は絶滅かと気を落としていたが、幼虫2匹を視認、観察を続けたところ又5匹を確認をした。いずれの幼虫も、水路内で継目のコンクリートが剥がれた部分に、泥が溜まった処に居た。最盛期の頃 田圃内でよく見かけたが、今は全く見かけない。

今年の田起こしで、他の中央から畦に向けて、泥土を寄せてあった。畦の草刈りを4回もやったが、ホタルの反応は無い。



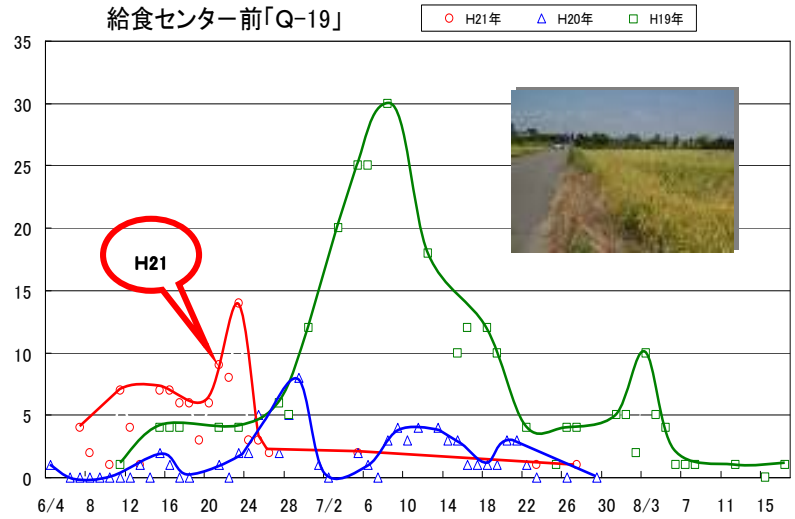
田植直後の風景です。撮映位置は水路の西端で、前方300m程が生息域です。用水路と田圃水面は1mほどの落差があります。古くなった用水路から適度な漏水があり、畦は常に湿っています。更に水路の南側には常緑樹が点在し、暑い時期の日差しを遮っています。ホタルの生息場所としては最高のシチュエーションを備えています。昨年は排水路の東側がやや多かったが、今年は西側に多数発生しました。傾向として立木の周辺に、多数集まるように見えた。今年度U字溝の埋設工事が予定されている。幼虫達にどんな影響を与えるか、とても心配である。



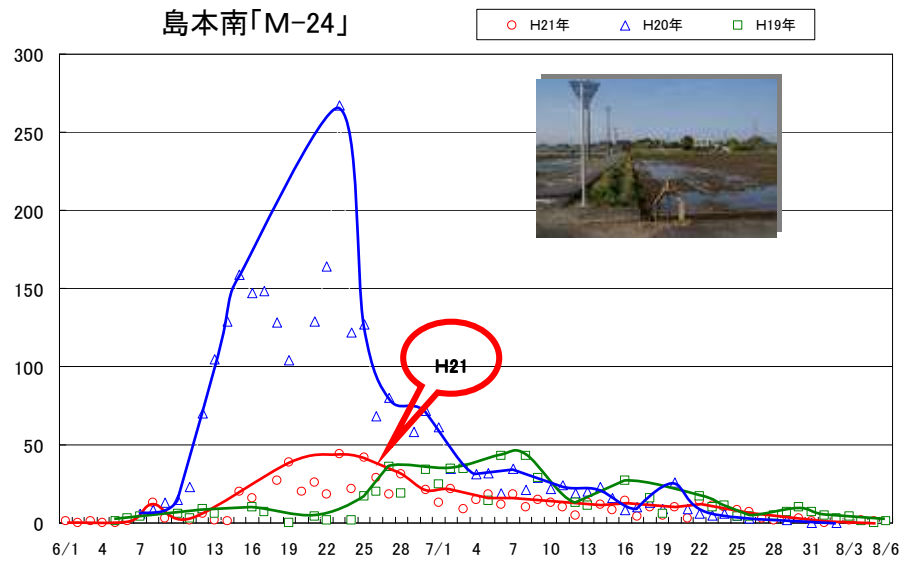
シーズンになると、毎晩ここに集まる「ホタルの守り主」達が大勢います。このホタルは、タニシを補給したり・鳥害防止の糸を貼ったり・また外したり、とにかく助力を惜しまない近所の人達に守られています。

5月第1週に姿を見せた。終息日は例年より10日ほど延びた。発生数は昨年より増えたが、最盛期の平成18年ピークの1/4程度に減少した。昨年よく幼虫を見かけたが、何故か今年は少なかった。

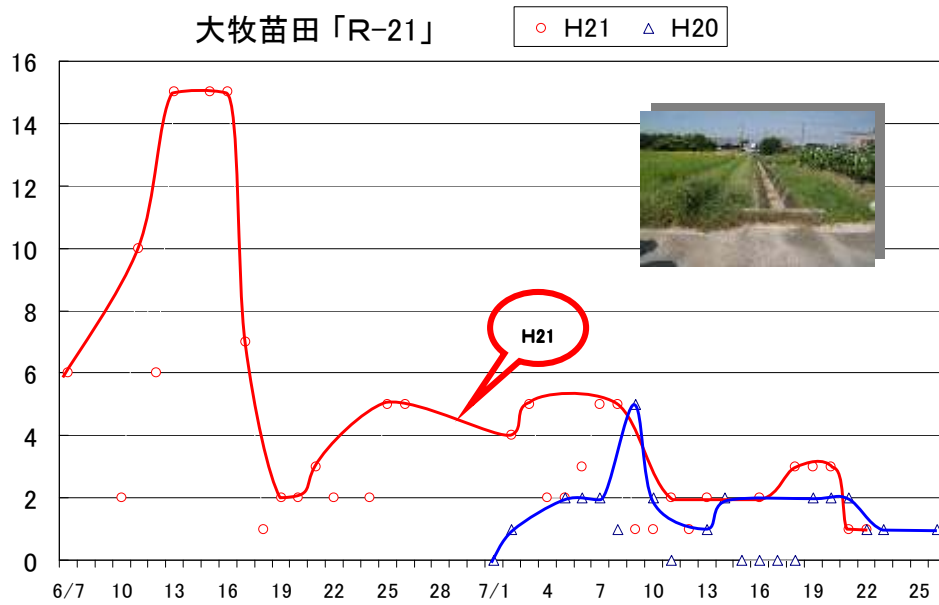
10月の水質調査で、仔アメリカザリガニの大量発生を確認し成した。低生物の生態系破壊が心配です。サギ類の飛来を期待して、水路上の鳥害防止糸を外した。



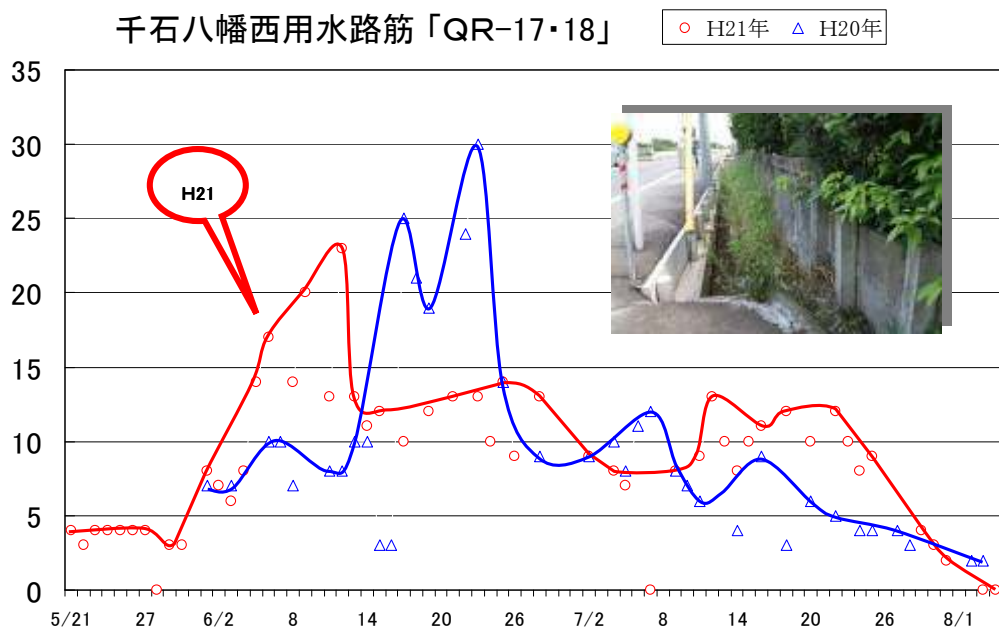
前方青々とした畦の部分が、会員の所有地。除草剤を撒かず、せっせと草刈りをしているのに、めっきり減ってしまった。



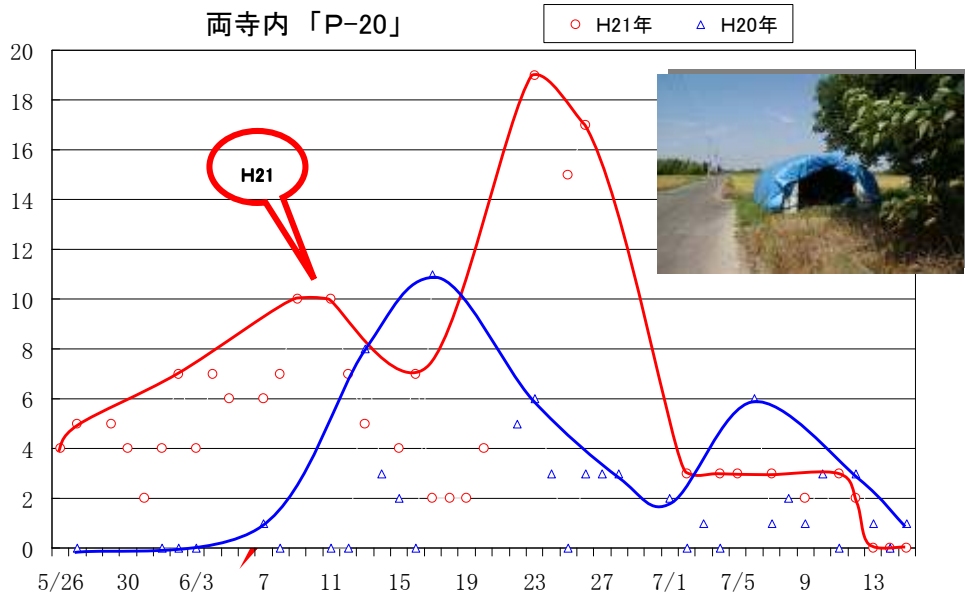
平成20年の 1/6 に減った。撮影地点後方の街灯(ナトリウム灯)の影響か、今年のホタルは北(前方)に移った。用水路は道路の西にあり、道路下を潜って給水される。手前の仕切り板は、海部幹線水路につけられたもので、島本側には関係ないという不思議な光景である。



撮影地点から左後方を南北に流れる排水路で観察した。昨年まで未知の場所だったが、水路にはタニシなど多数生息しており悪い雰囲気では無い。おりしも野良仕事最中の方と立ち話になった・・・
 「米作りでは、喰っていけないよ」「畑に替え、木を植えたよ」「その方が手間がかからない」等等・・・
 暗い話ばかりだった。

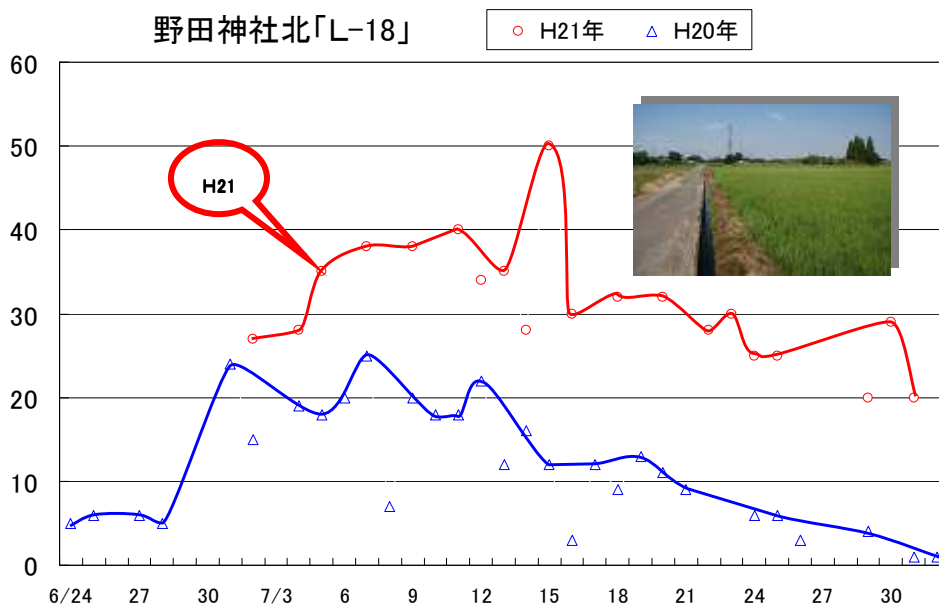


棚板の右上は民家で有る。用水路とタナ板の間の僅かな草地に、何年も前から20匹前後のホタルが飛び交っています。会員の指摘で、ホタルの存在を知った民家の人達は、草叢を手刈りするようになっています。落水後の溜水場には、タニシ・小鮒・メダカ・ドジョウを見つけました。来春までに水が枯れなければ生存可能なのだが……



牧川保育園の東に位置する此の南北道路は、かつては「ホタルの銀座通り」と言われていました。今は、このブルーシート周辺だけになりました。

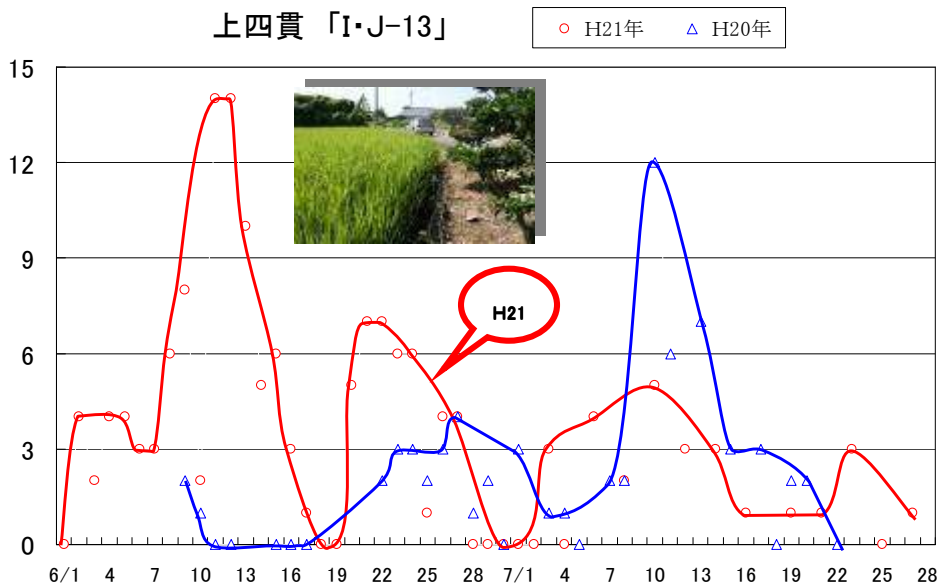
平成20年のデータから、南北道路全部を集計することにした。赤目方の田圃で、350匹のホタルに感嘆した話は、風化しつつある。



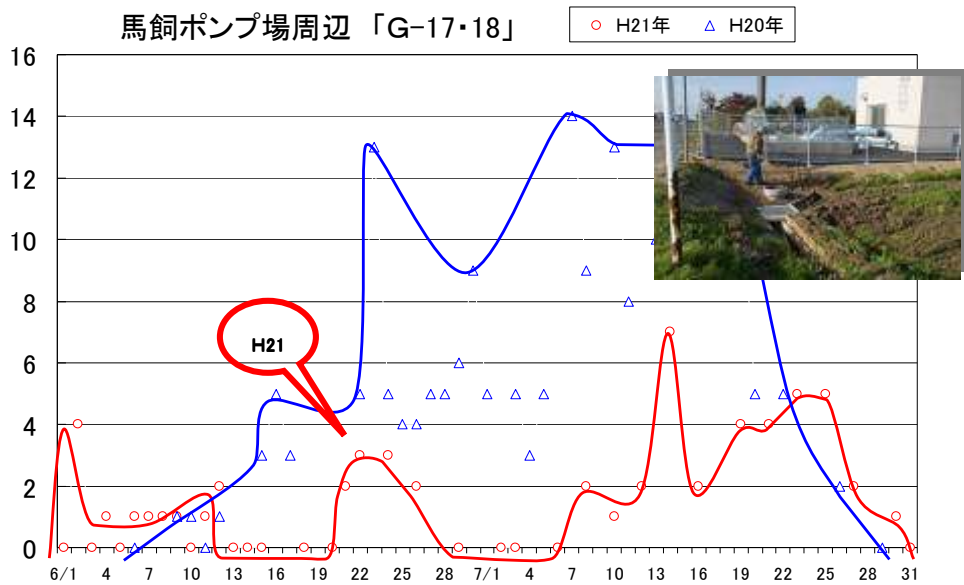
前方中央辺りの休耕田に生息している。

発生情報が遅れ、観察初日から高めの数値でスタートした。昨年の倍数位観察した。水路に5cmほどの水が溜まり、小魚の姿を見かけた。21年のグラフでは、始点と終点が見えない。夫々7～10日程度延びると推測できます。

上四貫「I・J-13」



6/3 3匹の飛翔を確認、6/4 幼虫2匹を発見、7/27 1匹を最後に観察を終了した。今年は前方の木々の足元周辺に多く、昨年より1ヶ月位早まったように見える。電柱に街灯が付き、民家玄関の照明は人を察知してパッと照らす、つづいて番犬が吠えだす。観察にはまことに不都合な環境になってきた。この田圃の左に四貫中央公民館があり、周りの農業用水路や排水路には、タニシ・モノアラガイ等が多数生息していた。



6/2 最初に2匹発見、その後数日間各1匹ずつ観察した。以後全く姿を見せなかった。昨年に比べ激減した。稲のシーズンオフの間、前方揚水ポンプ場の改修工事があり、周辺は綺麗に整理された。工事中、排水処理ホースが中央の用水路に差し込まれていた。コオイムシやメダカが大量に生息していた水路は茶濁し藻が腐りかけ、生き物の気配が全く消えた。此処の畦は、ホタルの存在を失っておられる地主が、手刈りを続けておられる。激減理由は、改修工事と関連があるのだろうか。観察者が見つけた数匹が、命の糸を紡いでくれるのを願っている。